東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

加賀美雅弘先生のご退職にあたって（加賀美雅弘先生を送る）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-04-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 牛垣,雄矢 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173793

学芸地理 77 号 2021 年 pp.17-18

加賀美雅弘先生のご退職にあたって

牛垣　雄矢*

加賀美雅弘先生は，2022年3月をもって東京学芸大学を退職されることとなりました．1986年の着任以降，36年間という長きにわたり本学の地理学分野を主導していただきましたことに，改めてお礼申し上げます．著書や論文など膨大な研究蓄積があり，研究者をはじめ社会で活躍する人材を数多く輩出され，かつ中学・高等学校の地理の教科書の執筆やNHK高校講座・地理の監修を長きにわたり務められるなど社会的貢献の面でも多大なる功績がおありの加賀美先生に対して，本学地理学分野の中でも若輩な私が，ご退職をお祝いする記事を書かせていただくのは誠に僭越ではございますが，仕事をご一緒させていただいた同僚の一人として，心に残った出来事を書かせていただければと存じます．

研究について意見交換をさせていただく機会において，加賀美先生からいただくアドバイスは常に的確であり，またアイデアに富んでおりました．加賀美先生を筆頭編者として，本学で地理を専門とする全教員が執筆させていただいた『景観写真で読み解く地理』（古今書院）では，本の企画から発行まで主導していただき，我々執筆者に対しても多くの助言とサポートをいただきました．加賀美先生のご尽力により出版することができた本書は，2021年度日本地理教育学会の出版文化賞（教員・一般向け部門）を頂くことができました．またこの本の発行の時期に本学で開催された日本地理学会春季学術大会では，本のお披露目としてシンポジウムを開催いたしました．ただでさえ多忙を極める日本地理学会の会場校の教員スタッフ全員が関わるシンポジウムは異例でしたが，大会実行委員長でもあられた加賀美先生の強いリーダーシップにより，大会もシンポジウムも成功裏に終えることができました．この大会は，日本地理学会の会場校としては久しぶりに本学で開催された大会でしたので，OB・OGの皆さまのご記憶にも新しいかと想像いたします．そのほかの機会としても，例えば飲み会の会話から加賀美先生のアイデアで始まった「地理談話会」（地理学分野の教員を中心に，最近の学問的な興味関心について意見を交換する会）において，私が話題提供をさせていただいた際にも，論文としてまとめるための貴重なご意見をいただきました．また私も編者の末席に加えさせていただいた『地誌学概論　第2版』（朝倉書店）の発行に向けて出版社の方が大学へ来られた際には，今後の企画について様々な意見が交わされ，大変に勉強になりました．

加賀美先生との関わりの中で，私が個人的に最も印象に残っているのは，私が本学へ赴任した直後，加賀美先生の研究室へご挨拶に伺った時のやり取りです．当時，地理学分野主任であられた加賀美先生から「私たち地理の教員はファミリーです．やりたい研究や教育を思いっ

* 東京学芸大学地理学分野

きりやって下さい」と仰っていただいたことで，若輩の身であった私も，思うままに研究・教育に励むことができました．このことばをいただいた日は，感動しながら帰路についたことを覚えています．

以降，食事やお酒をともにさせていただく機会も多く，研究からプライベートにわたって多くの貴重なご意見をいただきました．私の長女が通う幼稚園の運動会が日本地理学会の大会と重なってしまい，科研の集会に参加できないことをお話しした際には，「子どもとの時間は貴重であり，しばらくは研究や授業準備の時間を少し割いてでも，子どもと関わった方がよい」とご意見をいただきました．ことばというものは，「何を言うか」よりも「誰が言うか」で決まる，とも言いますが，加賀美先生がそのように仰るのであればと，このことばを心に刻みました．おかげさまで，今のところは長女との関係も良好でございます．

ある年は，木曜日の13時から13時半の時間帯にたびたび学食でお会いし，食事をご一緒させていただきました．加賀美先生は私からすればかなり目上の方にあたりますので，委縮してその時間帯の学食の利用を避けるということも場合によってはあり得たかもしれませんが，加賀美先生は高圧的な態度は皆無であり，いつも参考になるご意見をいただけるので，可能な限りその時間帯に合わせて学食を利用したものでした．

加賀美先生がおられない場でも，学会における委員会の飲み会や前任校で本学への異動を打ち明けた際など，様々な機会で加賀美先生のお名前があがり話題となることも印象的でした．数年前，同僚の青木先生とも「誰にでも少しくらいは変なところ，悪いところや弱点があるのに，加賀美先生にはそれが見当たらない」と話をしたことがありますが，それは今もってなお継続中であります．

加賀美先生がご退職された後の本学地理学分野は，大幅な戦力ダウンが余儀なくされます．それを懸念する声も学内外から聞こえてまいります．能力においても実績においても，私には到底先生の穴を埋めることはできませんが，先生からいただいた多くの教えを胸に，先生の背中を追わせていただくことで，他の先生方とともに地理学分野を盛り上げていく所存であります．

東京学芸大学人文社会科学系学系長の任期も間もなく終えられることで，やりたい研究や教育がたくさんおありのことと存じます．我々後輩としても，できれば研究・教育等で今後もご一緒させていただければと切に願っております．加賀美先生のますますのご健勝とご活躍をお祈りしつつ，送別のことばとさせていただきます．